

経費精算を デジタル化で効率化

今回のキャスト

社長 藤田 匠、社員 西園寺 千代

経費精算事務のため残業が増えて千代は愚痴り気味。もっと効率的な事務処理ができないだろうか。

千代 あー、また今日も残業です。繁忙期で明日の朝も早いのに、事務処理が全然終わりません。

藤田 千代ちゃんは月末になるといつも残業日が多くなるよね。そんなに経費の計算って大変なの？

千代 作業自体も煩雑なんですけど、みんな繁忙期になると余裕がないので後回しにして、なかなか領収書を渡してくれなくて。そのツケが私に回ってくる。山田くんがあまりにも遅いので説教しちゃいました。

藤田 やっぱりルールとして守らせるしかないな。千代ちゃんには悪いけど、税理士さんからも口酸っぱく言われているからね。

千代 そもそも、みんな紙で出してきた、その情報も紙で管理しているからいけないんです。領収書は集め

るにしても、先に金額をデータで送ってもらうとか、方法を変えないとダメですね。Excelのシートに

まとめるくらいならそんなに手間ではないし、最低限のリテラシーでできると思いますし。あるいはGoogle

のスプレッドシートなら、みんなで編集権限を持つことができます。

藤田 たしかに、その通りだね。改善していいこう。作業日誌もスマホで記入できるようにしたいよね。

千代 何年か前にスマホに移行しようとしていたけど、定着しませんでした。

「三方よし」のクラウド型システム

経費精算業務は とにかく大変

毎月必ず迫るようにやってくる経費精算業務。申請者、経理、承認者を巻き込んだの一大イベントといっても過言ではありません。それくら

したね。あのときはスマホじゃない人も何人かいましたし、平均年齢が今よりも10歳以上高かった。あのころとは状況が違うと思います。もう一度チャレンジしましょう。

藤田 そう、経費にしる日誌にしる、確認したいときにその場ですぐに確認できる状態であるべきだね。

千代 それクラウドの良さです。紙で管理したり、それぞれが別々のファイルで管理していると、いちいち取りに行ったり、送らなきゃいけないので、結局アナログな要素が多くなります。そういう時間を減らせれば、私の残業もなくなると思います。

い作業量が多い。しかし、組織全体が余裕をもって経費精算処理が完了することは珍しいのが現状です。皆さんの心の声は次のようなものではないでしょうか。

申請者(従業員など) 「経費精算の書類作成がまたギリギリになってしまった…」 「あの日どういう経路で現場へ向かったかな…」 「事後に検索した情報を申請書に転記するのが面倒だし間違えそう…」 「あのときの領収書はどこにやったかな…」
経理 「あの従業員、いつも申請が上がってこないな…」 「量が多く

今回の執筆者
和田 公彦

税理士法人ロールスパ
ートナース神奈川事務所
所長 /
(有)人事・労務パートナー
税理士



1975年7月、横浜市生まれ。中央大学商学部卒業後、金融機関のシステム会社でSEとして3年間従事した後、会計事務所に転職。以後、現在まで15年以上、税務・会計業務に従事する。業務の効率化や経営財務を主眼に置きながら、経営者が安心して目標に向かえるような体制づくりに注力している。

て一つ一つのチェックが大変：」「領収書の整理が大変だし、置くスペースがない：」「申請内容に不備があるけどあの従業員いつもないから確認が大変だな：」「会計ソフトへの入力作業が大変：」

承認者（経営者など） 「押印での承認作業は大変だな：」「この金額合っているのかな？ でも差し戻すのも面倒だな：」「承認作業のためだけに帰社・出社しなければならぬのは効率が悪いな：」

一連の作業であるはずなのに、三者それぞれに様々な「大変」が発生しています。一つ一つの作業は明確かもしれませんが、申請者と経理、経理と承認者、それぞれの間のやりとりが依然アナログのままの組織が多いように感じます。このアナログの関節部分が様々な「大変」の発生する原因なのです。

特に農業のように、個々の現場が離れていると、書類の受け渡しや確認作業がスムーズにできない。紙資料によるアナログな経費精算業務に限界を感じている経営者は多いのではないのでしょうか。組織全体の業務効率を考えると、このような事務に時間をかけることは非常にもったいない。さっさと片付けて、空いた時間を売上に直結する仕事に充てなければなりません。

クラウド型経費精算システムの導入効果

このような状況下では、クラウド型の経費精算システムを導入することにより、上記のような様々な「大変」を解決することができます。このシステムを導入することによるメリットは次の通りです。

申請者

- レシートや領収書をスマホで撮影してからOCR機能により日付、金額、支払先を読み込み、そのまま経費データとして保存できる。

- 取得した情報をそのままスマホやパソコンからクラウド上で申請できるため、Excelが不要になり隙間時間で済ませられる。

そのほか、高速道路のETCカードと連動、鉄道利用の場合にはSuicaやPASMOと連携して乗車履歴をスマホで取得、いずれも経費データとして登録できます。

経理

- 申請がクラウド上に上がってくるため、紙資料がなくなり保管スペースが不要になる。

- 外部との連携データ（交通系など）であるため金額が正確であることから、Excel上のミス（桁間違い、計算式のミスなど）がなくなる。

り、不正もなくなるため、確認のための作業時間が大幅に減る。

- 領収書やレシートがクラウド上に画像データ化されて各明細に紐付いていることから、画面上で容易に確認できるため紙資料の見返しが不要になる。

- 不備があった場合もクラウド上でコメントを付したうえで差し戻すことができるため確認作業が楽になる（申請者側も差し戻された情報はクラウド上で確認・回答をすることがができる）。

承認者

- クラウド上での承認作業であるため、自宅など場所にとらわれず行なうことができる（わざわざ出社しなく済む）。

- 紙への押印作業が不要になる。

- 差し戻しが楽になる。
このように三者の「大変」が解消され、まさに「三方よしのシステム」なのです。

仮に従業員10名の組織を想定した場合、クラウド導入前に比べて全従業員の年間作業時間が87時間削減でき、これをコスト換算すると年間11・3万円削減できるとい試算があります（マネーフォワード調べ）。

この試算は、ただ「楽になった」「コストが浮いた」というだけではありません。浮いた時間とコストを将来の売上に直結するような行動に投資することができるという大きな効果を得ることを意味します。すると、組織の業績が改善する可能性が非常に高まると言えるでしょう。

会計や給与計算とも連動した便利な経費精算システム

数多くの経費精算システムのなかで、例えばマネーフォワード社の『マネーフォワードクラウド経費』やfreee(株)の『会計freee』は非常に便利なツールです。他社ソフトの機能とさほど大きな違いはないかもしれませんが、経費精算業務周りの会計業務や給与計算業務との連携の良さに特徴があります。

『マネーフォワードクラウド経費』は『マネーフォワードクラウド給与』『マネーフォワードクラウド会計』とそれぞれAPI連携しているため、ボタン一つで情報を連携させることができます。つまり、申請した経費精算のデータが確定すると、そのデータを給与ソフトに反映させることができ、さらに、その給与情報を会計ソフトに自動で登録することができます。

経費精算機能が組み込まれている『会計freee』は、『人事労務freee』とAPI連携をしているのでマネーフォワードと同様の処理をすることができます。これらのシステムを導入することにより、業務効率が格段に上がります。